

事務局

事務局長 若林 正幸
財務委員長 辻 裕登
事務局次長 木田 智晴

1) 基本方針

1 青年会議所においても、ダイバーシティの実現は、組織に活力を与えるとともに、会員
2 の多様なニーズに対応できるなど、組織の持続可能性を高めます。近年、会員のライフス
3 タイルは多様化し、活動のために割くことのできる時間は、会員間で一様でなくなっています。
4 会員が抱える仕事、育児などの事情に配慮しつつも、互いに協力し、積極的に活動
5 へ参画できるような環境を整え、誰もが活躍できる組織運営を実現する必要があります。

6 まずは、経験の有無にかかわらず、誰もが業務を担うことができるようにするため、業
7 務に関するノウハウやマニュアルを一元的に管理する体制を整備し、他の会員から業務を
8 引き継ぐ際に生じる不都合を減らします。そして、その引き継がれた業務を効率的に遂行
9 するため、それを阻害するような運営方法が採用されていないか、会員から広く意見を聴
10 取し、より合理的な運営方法を提案します。さらに、特定の会員への業務の集中を避ける
11 ため、業務の標準化を推進し、必要に応じ、他の会員が代替できる体制を構築します。また、
12 会員数の減少、物価高騰などによる逼迫した財務状況のなか、会員間で現状の認識を
13 共有するために、詳細な財務情報を公開するとともに、会員同士が将来を見据えた議論を
14 交わす機会を設けます。そして、広報においては、会員の将来の活躍の場を広げるため、
15 出向をはじめとする会員の多様な活動の様子を発信します。さらに、一年の集大成として、
16 卒業式を執り行い、卒業生が青年会議所での活動を通じて培った精神を現役会員へ継承し、
17 現役会員が次代の青年会議所運動を担う自覚を高め、新たな視点を得る契機とします。

18 事務局は、組織が円滑に運営されるように、組織全体を牽引します。正確かつ効率的な
19 事務運営は、会員の信頼を育み、組織の結束力を強化します。効率化と持続可能性とを両
20 立させた基盤整備を行い、組織が未来へ力強く歩みを進めるための確固たる礎を築きます。

2) 事業計画

23 1. 第 126 回通常総会	1 月 12 日
24 2. 第一回臨時総会	6 月 9 日
25 3. 第二回臨時総会	7 月 21 日
26 4. 12 月度例会（卒業式）	12 月 6 日
27 5. 出向者への支援	通年
28 6. 同好会への支援	通年

30 3) 事業予算	319,000 円
31 4) 委員会開催予定日	毎月第 2 火曜日

32

33

34

35

36

37 第二回正副理事長予定者会議 2025年10月15日(水)
38 意見1: 1~5行目の内容は会員拡大を担当する委員会が書く基本方針のようにみえるの
39 で、事務局らしさを出してください。
40 対応1: 第1段落を見直しました。
41 意見2: 1~5行目の部分でネガティブな内容が多いので、そうならないような表現にして
42 ください。
43 対応2: 対応1と同じ。
44 意見3: 3行目に「退会の一因となったりする」とあるが、役割が増えることで意欲が高ま
45 るイメージが強いので本当に「退会の一因となっているのか」確認してください。
46 対応3: 当該箇所を削除しました。
47 意見4: 手法のパートに広報のことが記載されているが、広報が議論の前提となるわけで
48 はないので、広報本来の役目を考えてください。
49 対応4: 当該箇所から「広報」という言葉を削除しました。
50 意見5: 手法パートに議事録のことが記載されているが、議事録によって会員同士の議論
51 が促されるというのを違う気がするので、議事録本来の役目を考えてください。
52 対応5: 議事録を作成する目的のうち、最も本質的なものは何かを示しているわけではなく、会員同士の議論を促すために議事録が担っている役割を再評価しようとしています。
53 議事録が正確かつ迅速に共有されることにより、会議に出席できなかった会員も、議論の
54 流れや論点を把握することができるようになります。その結果、情報の非対称性が低減さ
55 れ、会員間の議論が促されると考えます。
56 意見6: 手法パートに財務のことが記載されているが、財務情報を開示するだけではなく、
57 今後の財務の在り方について議論をすることが重要かと思います。
58 対応6: 財務についての記述を見直しました。
59 意見7: 財務について、議論ができるような場所を設えて、全会員が財務の視点をもつこ
60 とが大事になってくるので、その辺りも踏まえた基本方針にしてください。
61 対応7: 対応6と同じ。
62 意見8: 15行目から卒業式のパートが記載されているが、ここだけ前の文章からのつなが
63 りが見えづらいので、つながりがもてるような記載をしてください。
64 対応8: 卒業式についての記述を見直しました。
65 意見9: 日本語として見栄えのよい接続詞となるように全体を精査してください。
66 対応9: 他の意見への対応の結果、不自然な接続詞の使い方は見つかりませんでした。
67 意見10: 文章全体を通して、話し言葉がはいっている箇所があるので、修正してくださ
68 い。
69 対応10: 他の意見への対応の結果、話し言葉は見つかりませんでした。
70 意見11: 広報は四日市青年会議所のことを知ってもらうために重要な情報源なので、広報
71 幹事を巻き込んでどのような運営方法でいくのかを検討してください。
72 対応11: 広報についての記述を追加しました。
73 意見12: 事務局としてやらなければならないこと、やりたいことを、事務局長主体になっ
74 て改めて考えて、基本方針を修正してください。
75 対応12: あらためて考え、他の意見に対応しました。
76
77 第二回理事予定者会議 2025年10月29日(水)
78 意見1: 「個別の事情を抱える会員」という文言について、マイナスな捉えができるよう

80 に感じます。どのようなイメージでしょうか。

81 対応 1：当該箇所を削除しました。

82 意見 2：全体的に 2025 年度までの事務局基本方針と類似するところが多く感じます。次年
83 度の事務局としての特色としての考え方があれば教えてください。

84 対応 2：第 2 段落を見直しました。

85 意見 3：背景、課題の解決に対して手法が見合っていないように感じます。個別の事情を
86 抱える会員に対して情報開示や共有をすれば従来のスタイルを維持できるのでしょうか。

87 また、従来のスタイルを維持するのであれば時間をかなり消耗するところもあるので、個
88 別事情が増える可能性はないでしょうか。

89 対応 3：対応 2 と同じように修正をしました。

90 意見 4：L3～L4 は手法になるのではないのでしょうか。

91 対応 4：第 1 段落を見直しました。

93 第三回正副理事長予定者会議 2025 年 11 月 12 日(水)

94 意見 1：3 行目に「誰もが活躍できる組織運営を目指すこと」とありますが、実現ではな
95 く、目指すことによろしいでしょうか。実現することが大切かと思います。

96 対応 1：第 1 段落を全体的に見直しました。

97 意見 2：青年会議所は能力を發揮する場ではなく学ぶ場ですので、2 行目の「自身の能力を
98 発揮し」というのは少し違うかと思います。

99 対応 2：対応 1 と同じように修正しました。

100 意見 3：6 行目では「建設的な議論の基盤を形成し、」7 行目では「誰でも議論に参加でき
101 る体制を整える」とありますが、同意義なので表現を一考してみてください。

102 対応 4：第 2 段落を全体的に見直しました。

103 意見 5：10 行目にある「会議準備や報告業務の短縮に…」はデジタル化をしてもそうはな
104 らない部分も多くあるので表現を変更してください。また、「迅速に」対応することが時間
105 短縮につながらないかと思います。

106 対応 5：対応 4 と同じように修正しました。

107 意見 6：10 行目「デジタル化…高めます。」までの文章は手法としてまとまりきっておら
108 ず、事務局として何を行っていくのかがわかりにくいので、事務局が 2026 年度に取り組み
109 たいことをもっと考えてみてください。

110 対応 6：対応 4 と同じように修正しました。

111 意見 7：15 行目「新たなパートナーシップの構築」とあるが、表現としては構築ではなく
112 発見が正しいかと思います。

113 対応 7：「新たなパートナーシップの発掘」に変更しました。

114 意見 8：13 行目「財務状況の推移グラフを公開し」とあるが、それで財務の意識が高まる
115 とは思えません。これから予算をどのように適切に使っていくのか、限られた予算の中で
116 効果的な運動を生み出すことを議論することが大切なのではないでしょうか。

117 対応 9：「財務セミナーを開催し、会員同士が将来を見据えた議論を交わす機会を設け」る
118 ことにしました。

119 意見 10：15 行目の広報に関する内容は贊助企業を増やしたい目的があるのであれば、表現
120 がもっと違うかと思います。企業に青年会議所に興味を持っていただく、など、そのよう
121 な表現かと思います。

122 対応 10：「地域の方々に興味をもっていただけるような情報を発信します」に変更しまし

123 た。

124 意見 11：全体を通して、多様なライフスタイルの会員が活躍できる方法をもっと模索して

125 基本方針を書き出せれば、さらに良い基本方針になってくるかと思います。

126 対応 11：対応 4 と同じように修正しました。

127 意見 12：1～5 行目の部分をもっと深堀していって背景に紐づく手法を取り入れていくよう

128 にしてみてください。

129 対応 12：対応 4 と同じように修正しました。

130 意見 13：4 行目に「求められます。」とあり、5 行目に「必要があります。」はどちらも同

131 じ意味合いでありますので、どちらが必要なのか絞ってください。

132 対応 13：対応 1 と同じように修正しました。

133 意見 14：6 行目～17 行目の手法にあたる部分に、なぜそれをしなければならないのか、そ

134 の理由が記載できるようになれば手法もまとまってくるかと思います。

135 対応 14：対応 4 と同じように修正しました。

136 意見 15：6 行目「全会員が意見を共有できる環境を整備し、意見を募る…」とあるが、過

137 去に行つた議案セミナー等の実践的な手法を取り入れることで建設的な議論の土台をつく

138 ることもできると思うので参考にしてみてください。

139 対応 15：対応 4 と同じように修正しました。

140

141 第三回理事予定者会議 2025 年 11 月 20 日(木)

142 意見 1：「地域の方々に四日市青年会議所に興味をもっていただけるような内容の広報」と

143 ありますが、内容だけですか。内容も見てもらわなければ意味ないと思いますが、見ても

144 らうための工夫とかしていきませんか。

145 対応 1：広報に関する記述を見直しました。

146 意見 2：13 行目「広報においては、新たなパートナーシップの発掘につなげるために」と

147 あるが、パートナーシップを締結する相手は、会員またはそれ以外の者のどちらか。

148 対応 2：青年会議所の枠を越えて、企業、他団体などとのパートナーシップを締結するた

149 めの足掛かりとなるような広報活動を展開していきたいと考えています。

150 意見 3：年間事業概要一覧表に財務のことが毎月と記載されているが、基本方針と照らし

151 合わせると毎月財務セミナーを開催するのでしょうか。

152 対応 3：財務セミナーを毎月開催するわけではなく、会計処理などの日々の業務に関する

153 内容を年間事業概要一覧表に記載しております。

154

155 第四回正副理事長予定者会議 2025 年 11 月 27 日(木)

156 意見 1：広報につながる課題が記載されていないので、なぜ広報をしなければならないの

157 かといった視点も踏まえて一考してください。

158 対応 1：広報に関する記述を見直しました。

159 意見 2：Instagram の活用だけでは新しいパートナーシップを発掘することは難しいと思う

160 ので、どう広報をすると良いのかも考えてみてください。

161 対応 2：対応 1 と同じです。

162 意見 3：経験の豊富な方、経験の少ない方それぞれから組織運営としてどうあるべきなの

163 かを一度ヒアリングするなどして考えてみてください。

164 対応 3：本文に「会員から広く意見を聴取し、より合理的な運営方法を提案します」とあ

165 るように、今後も継続してヒアリングを行います。

166 意見 4：多様性とダイバーシティの違いについて、理事長所信ではどのように考えられて
167 いるのかを考えてみて、この基本方針の中ではどちらを使うことが事務局にとって良いの
168 かを考えてみてください。

169 対応 4：理事長所信に「ダイバーシティ社会とは『性別や年齢、国籍や文化的背景、性的
170 指向や性自認などの多様性が受け入れられ、誰もが個性と能力を十分に発揮できるよう
171 なっている社会のこと。』を指す」とあるように、「ダイバーシティ」は、社会を形容する
172 言葉として使用されており、青年会議所という組織を形容する言葉として使用すること可
173 能であると考えます。

174 意見 5：2026 年度の理事長所信の中で事務局として何をやってほしいのかを改めて考えて
175 みてください。

176 対応 5：あらためて考え、広報に関する記述において出向に言及するなど、見直しを行い
177 ました。

178 意見 6：事務局の中でどのような組織運営であれば効率的な組織運営ができるのかを一度
179 考えてみて、良い方法があれば各委員会へ展開して提案していく方法も良いかと思いま
180 す。

181 対応 6：本文に「会員から広く意見を聴取し、より合理的な運営方法を提案します」とあ
182 るように、2026 年度において運営方法に関する提案を行います。

183 意見 7：事務局が広報を担う中で発信力の強化は必要不可欠なことなので、どのような工
184 夫をするのかを考えてみてください。

185 対応 7：対応 1 と同じです。

186 意見 8：背景の中で青年会議所の中の事務局としての課題はあるはずなので、それを深堀
187 りしてください。

188 対応 8：背景に関する記述を見直しました。

189 意見 9：2026 年度は出向者が多くいるので、出向者の活躍する場を広報として打ち出し
190 て、青年会議所のことを知ってもらう手法というのも良いかと思います。

191 対応 9：対応 1 と同じです。

192 意見 10：財務状況が逼迫している危機感を共有するのではなく、財務のことを知ってもら
193 い、今後の未来を全会員で創り上げていくことの方がよりポジティブに見えるかと思いま
194 す。

195 対応 10：財務に関する記述を見直しました。

196 意見 11：卒業式のパートは次代の青年会議所を担うことの自覚ではなく、この卒業式を受
197 けて青年会議所活動へ取り組むためのスイッチが切り替わるような手法を取り入れること
198 の方がより卒業式を開催する意味は深まるかと思います。

199 対応 11：卒業式に関する記述を見直しました。

200 意見 12：「会員の様々な事情に配慮しつつ個人の価値観を尊重し」という文章を見ると、
201 青年会議所活動へ精力的に取り組まなくても良いような印象が見受けられます。

202 対応 12：第 1 段落で「会員が抱える仕事、育児などの事情に配慮しつつも、互いに協力
203 し、積極的に活動へ参画できるような環境を整え、誰もが活躍できる組織運営を実現する
204 必要があります」と表現を変更し、仕事、育児などの事情を抱える会員も積極的に活動へ
205 参画できるようにすることを目的に含めました。

206 意見 13：1 行目にあるように「ダイバーシティの実現」だけでは言葉足らずのように感じ
207 るので、どのような社会(組織)の実現を目指したいのかを記載できるとよりわかりやすい
208 かと思います。

209 対応 13：対応 8 と同じです。

210 意見 14：4 行目に「一様ではなくなっています。」とあるが、これまでそのような状態はずつと続いてきていたので、ニュアンスとしては少し違うかと思います。

212 対応 14：「一様」には、大きな差がなく、傾向として同じであるという意味がありますが、この差については、絶対的な指標があるわけではなく、過去と比較して、相対的に差が大きくなっている場合であって、かつ、その差がより分散しているような場合にも「一様でなくなっています」という表現を使用できると思います。

216 意見 15：背景にある内容として、ダイバーシティの実現ができたから多様なニーズに応えられることができたというのは逆説のように感じるので一考してください。

218 対応 15：組織がダイバーシティを実現した場合であっても、例えば、新たに入会した会員から従来と異なるニーズが生まれることもあります。ダイバーシティが実現した組織であれば、そのようなニーズにも柔軟に対応できるという意味です。

221 意見 16：ところどころに「業務」という表現があるが、日頃から行っている活動は「業務」とは少し意味合いが違うので精査してみてください。

223 対応 16：おっしゃるとおりですが、青年会議所の活動の一部には、「業務」と呼べるものもあり、そのような活動を念頭に置いて使用しています。

225

226 第四回理事予定者会議 2025 年 12 月 8 日(月)

227 意見 1：なし。

228 対応 1：なし。